

## [第15回目] まとめ

この授業では「電磁気学」の基礎を学びました。

- ・専門的に電気回路、電気設備などを学ぶときの基礎になります。
- ・専門が電気関係でなくても、仕事を外注したり、一緒に仕事をする業者との打ち合わせをしたりするときなど、少し電気のことを知っているか、いないかは大きな違いです。
- ・日常生活、社会生活においても、科学的な常識(科学リテラシー)をもっていることは、間違った情報に踊らされず、評価が定まらない新しい技術の是非(メリット・デメリット)を判断したりする上で重要です。

例：電気自動車は本当に省エネになるのか？スマホの電磁波の健康リスクは？

\*\*\*\*\*

**レポート課題** 第15回目 第2回確認テストの復習レポートを提出する。

## 試験・評価について

- ・試験範囲は全範囲(原子の構造と電気力～電磁誘導)である。
- ・レポート課題の提出回数が少ない者、欠席・遅刻・退室が多い者の評価は、期末試験を受験しても評価は「欠席」となる。
- ・理由なく無断で期末試験を欠席した場合は、評価は「欠席」となる。(理由がある場合は、追試・特別追試の手続きをとること。)
- ・総合得点=小テスト(16点)+中間①(17点)+中間②(17点)+期末(50点)  
60点以上で合格 [レポート期限遅れ常習者は10点減点]

◎ 期末試験 火曜2時限→1月29日(火)の授業時間 B0402講義室(変更あり)

木曜3時限→1月24日(木)の授業時間 D0311講義室

- ・関数電卓を使用する。作図用の定規は使用可。
- ・教科書、ノート、プリントなど一切参照不可。

◇ 合格点に到達しなかった者への再試験は行わない。(制度的な追試・特別追試はある)

◇ 確認のため、2月1日(金)～7日(木)、この授業の基礎物理Aの合格者の学籍番号を、D0308研究室前の掲示板に掲示します。「秀・優・良・可」の成績は答えません。確認して、合否に合理的な疑義がある者は来てください。

※合格しても学籍番号の掲示をしてほしくない人は、第14回レポート解答用紙の左下の「否」を○で囲むか、第15回課題(復習レポート)の名前の横に「否」とはっきり書く。意思表示がない場合は掲示します。

なお、成績は後日配布される試験結果通知書で確認でき、異議申請もできます。

=====  
期末試験の出題範囲

- 教科書の章末問題Aレベルの問題を中心に出题する。確認テストでは出題していないBレベルの問題も発展問題として一部出題する。ただし授業で扱っていない章や部分を除く(レポートで出題されたBレベル問題を参照)。
- 確認テストの出題範囲、小テストを参考に復習しておくことよい。

試験の公式リストに載っていない重要な式、よく理解してしっかり頭に入れておくこと。  
(式番号は教科書のもの)

電荷保存則：式(1.1)，電場：式(2.1)，重ね合わせの原理：式(2.5)，(4.11)，電位：式(4.3)，  
電気力の仕事：式(4.5)，電流：式(6.1)，オームの法則：式(6.3)，電力：式(6.7)，  
右ねじの法則：式(7.5)，(7.8)，  
電流が磁場から受ける力：式(8.4)，(8.5)，ローレンツ力：式(8.7)，(8.8)